

|  |  |
|--|--|
| <p>教材名 ACリレースイッチ<br/>(電化製品スイッチ操作用)</p>   |    |
| <p>〈教材のねらい・使い方〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スイッチ操作を自分でする。<br/>(今回は「握りスイッチ」を使用)</li> <li>・自分の動作と機器の動きの因果関係のある遊びを理解する。</li> <li>・玩具で遊ぶことが難しい場合、身近な電化製品から得られる様々な刺激(振動、風、音、光)などは興味・関心が高く、繰り返し体験する中で体感的な遊びとして楽しむことができる。</li> <li>・このリレースイッチに電化製品と実態に応じたスイッチを接続することで、電化製品のオン・オフのスイッチ操作が可能となる。</li> </ul> |   |
| <p>材料及び作成の工夫等</p>  |  |
| <p>〈材料〉コンセントタップ、リレー本体、ACアダプター、各種スイッチ、電化製品<br/>〈作成の工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・従来のリレースイッチは乾電池で駆動するものが多かったが、台上にコンセントを設置し、乾電池部分をACアダプターに代替させることで、製作と実際の利用の簡素化を図ることができた。</li> </ul>  |  |
| <p>題材名と児童生徒の使用している様子等</p>  |  |
| <p>〈自立活動 ブラックライトで遊ぼう〉</p> <p>明暗を感じることができる生徒を対象に、蛍光塗料で描いた部分がブラックライトで光って浮かびあがるのを見たり明るさを感じたりして楽しむ題材にした。</p> <p>スイッチ操作の初期段階の学習では、感覚の実態に応じて、提供する刺激を選択することが大切である。</p> <p>今回は、視覚刺激を選択し、楽しみながら、主体的な動き(握ったり緩めたりする力)でオンオフができ因果関係の理解には有効であった。</p> <p>浮かび上がった描画絵の方に顔を向けたり視線を動かしたりする姿と共に、スイッチのオンオフをする姿も見ることができた。</p>            |  |